2026年度（令和8年度）学校評価自己評価表

福山市立向丘中学校区	校番 8	福山市立向丘中学校

最終更新日	2026年（令和8年）10月1日

Ⅰ 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ 中学校区

前年度学校運営協議会（学校関係者評価）の主な内容
・基礎基本の定着に向けて、学校と家庭が同じように支援ができるよう取組の共有をしてほしい。 ・「学習とスマホ」についての学校と地域、家庭の情報共有を行うとともに、継続して情報の発信をしてほしい。

児童生徒の現状
・行事や各取組において、生徒が仲間と挑戦したい内容を協議し、全校で実現に向かう姿が見られる。 ・学習に粘り強く取り組む生徒が増えてきた。 ・様々な状況が要因となり、長期欠席児童生徒が増えた。

育成する資質・能力	主体性、自己理解、課題発見・解決力
めざすこども像（義務教育修了時の姿）	人とのかかわり合いを大切にし、学ぶ意欲を持ち、自分の生き方を主体的に考える子ども
中学校区として統一した取組等	○自校の取組を深く理解し、自主性・主体性を発揮し、「子ども主体の学び」の実現に向けて取り組む。 ○各校の実践や研究についての交流を深め、職員の主体性の向上や意識改革のきっかけとする。 ○お互いの具体的な実践の交流から課題意識と自己研鑽の意欲を持ち、個人的な授業参観や、放課後の相談等、教職員が起点となる研修を推進する。

Ⅲ 自 校

学校教育目標
『感謝感動の心と貢献する心を大切に持ち続けることができる生徒の育成』

現 状
<児童生徒> ○明るく、伸びやかな風土のもと学校生活を送っている。 ○全生徒を対象とした教育面談週間の推進で、教師との信頼関係が積みあげられてきた。 ○他者の意見へ依存する傾向があるが、自らの考えを深めたり、広げたりする機会を設定することで、生徒の表現しようとする姿勢が見え始めている。 <授業> ○単元を通しての問いや見方・考え方、活用方法などを積み重ね探究することにより、生徒の主体的な学びの姿が見られるようになった。 ○定期考査前や長期休業中の自主学習教室を設定することにより、生徒の学習習慣の定着が見え始めた。

育成する資質・能力		主体性、自己理解、課題発見・解決力
めざすこども像		○夢と志を持ち、自らの考えを発信しながら意欲的に学ぶ生徒 ○自己を認識し、自分の人生を選択し表現することができる生徒 ○人を大切にし、他者との良好な人間関係を築くことができる生徒
研究	テーマ	生徒が、毎日の授業の中で「学びの価値を実感できる授業」を全教科で推進する。
	内容等	○「主体性・自己理解」を育むために、全生徒を対象とした教育面談を設定する。 ○「課題発見・解決力」を育むために、生徒および教師がともに挑戦してみようと思えるものを共有し、疑問の発見から探求へ、そして発見したことを表現する活動を授業等で実践する。
めざす授業の姿		○生徒の基礎学力の定着に向けて、組織体制での授業改善と評価の見直しを推進し、生徒と共に全力で授業に取り組む。<基礎基本の定着> ○生徒自らが見方・考え方を明確にし、自らの考えを表現する。<主体的な学び>

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立向丘中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	基礎学力の定着・向上と学び続ける力の育成	★	継続	授業改善に取り組み、子ども主体の学びを実現する。	・授業で学んだことへの興味や疑問を探求し、表現する時間を各単元題材において設定する。	・生徒アンケート「授業で考えることは面白い」の肯定回答を全教科で75%にする。（前年度72%）	・生徒アンケート「授業で考えることは面白い」と感じている生徒の肯定的回答は全教科平均で70%であった。（前年度7月78%）	2	2	日常生活と結び付けられるような題材を選択し、教員が授業参観することで授業改善につなげる。学習する習慣をつけ、基礎学力の定着を図る。					
			継続	基礎学力の定着とともに、発展・活用的な課題へ挑戦する意欲を養う。	・入試問題や発展的、活用的な課題を単元テスト、定期考査等において設定する。	・生徒アンケート「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の肯定回答を全教科で85%にする。（前年度81%）	・生徒アンケート「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」と感じている生徒の肯定的回答は全教科平均で72%であった。(前年度7月88%)	2	2	日常生活から生まれた興味関心や疑問点を、教科の学習に結び付ける。話し合い活動の場で、自分の考えを積極的に表現しようとする環境を整える。					
4	不登校の未然防止と支援の充実	★	継続	生徒の自己肯定感を育み、自己実現に向けた意欲を向上させる。	・生徒主体の「特別活動」を通して、協働的な学びの場を充実させ、キャリアログや振り返りをもとに評価、面談を行う。	・生徒アンケート「自分のよさはまわりの人から認められていると思う」肯定回答を85%以上にする。（前年度84%）	・生徒アンケート「自分のよさはまわりの人から認められていると思う」肯定回答を78%であった。（前年度 85%）	3	3	全校表彰を継続する。肯定的評価や声掛け・振り返りを通して、周囲から認められる喜びを実感できる環境を整える。各学年の実態に合わせて評価の場を増やす。					
			継続	生徒一人一人を大切にした個別支援の充実を図る。	・欠席率、日々の生活の様子を教員で共有し、各学年で計画的に個別対話や評価面談を実施し、個に応じた支援を行う。	・長期欠席者の出現率を6.5とする。（前年度7.6）	長期欠席生徒は8月末段階で 8人。出現率 2.2だった。（前年度 3.2）（新規長欠者 1人）	3	3	個別に対話できる時間を確保する。生徒指導委員会では各学年の取組を共有し、個に応じた支援を速やかに行っていく。また生徒や保護者との対話を大切にし、複数の視点で生徒理解を深めていく。					

4	教職員が生き生きと働ける環境整備		継続	教職員同士が分掌・学年の枠を越えて協働し、職員室内の同僚性向上を図る。	・学年会、分掌会、教科会を定例化し、企画委員会への意見集約のスピードアップを図る。	・教職員アンケート「自分の挑戦に対して協働してくれる仲間がいる」肯定的回答50%(前年度38.9.%)	・教職員アンケートの肯定的回答は52.9%だった。新たに行事検討委員会を設け、意見を反映しやすい環境を整えた。	3	3	・行事や取組の立案に関して、起案担当者が中心となって検討委員会を組織立てるよう、学校体制を整えていく。					
		★	継続	教職員が主体性を発揮し、やってみたい実践を実現できる学校づくりを推進する。	・学年をまたいだ取組や地域連携を活性化し、生徒の学びの意欲を多面的に支えられる環境づくりを推進する。	・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定的回答50%(前年度27.8.%)	・教職員アンケートの肯定的回答は 52.9% だった。2年企業講話は、より地域の課題解決に近づいた取組となった。	3	3	・1年の総合的な学習の時間を見直す。CS 委員と教職員が連携し協働できる体制を促進する。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。